

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

summer 2012
Jul.-Sep.

81

手紙が語る

中原中也と安原喜弘の

魂の交流

特集 特別企画展

「中原中也の手紙―安原喜弘との交友」



よるの歌

安原喜弘
54
13

昭和六年
九月二十二日

特集

03 手紙が語る
中原中也と安原喜弘の
魂の交流

特別企画展

「中原中也の手紙—安原喜弘との交友」

ピックアップイベント

08 今夜はシネマ・ナイト☆
真夏の夜の星空上映会

山口情報芸術センター

tecpot —学べて創れるメディア工房
メディア表現に出会い、さらなる発見を生み出す場

scopic measure #14

Goh Uozumi 新作インスタレーション「observer n」
ネットワーク時代における新しい創造性とリアリティ

中原中也記念館

中原中也を読む会「第100回記念 映画『眠れ蜜』を観る」
中也、小林秀雄を翻弄した女性の貴重な映像

山口市市民会館

世界名作バレエ劇場

チャイコフスキー3大バレエ・ハイライト
ハイライトでお贈りする夢の名作バレエ劇場

美輪明宏 音楽会〈愛〉

美輪明宏の唄には溢れる愛のドラマがある

12 any 通信

◎アーティストボイス 高嶺 格 (美術家、演出家)

◎お先に試写しました 「メランコリア」

◎いらっしやいませ インド料理専門店「Shiba」

◎GOOD GOODS 記録集『Creativity Seen/Unseen in Art and Technology』

◎My Favorite 佐内泰之 (中原中也記念館 副館長)

14 イベントカレンダー 7~9月

INFORMATION

手紙が語る 中原中也と 安原喜弘の 魂の交流

特集 特別企画展

「中原中也の手紙—安原喜弘との交友」

インタビュー 中原 豊

安原喜秀

詩人・中原中也は
友人たちに多くの手紙を書き送っていた。
なかでも安原喜弘に宛てた手紙は
100通を超え、
現存するなかで一番数が多い。
その手紙からみえてくるのは、
単なる友情を超えた
中原中也と安原喜弘の魂の交流。



安原喜弘 Yasuhara Yoshihiro

1908年生まれ。1932年、京都帝国大学文学部卒業。女学校の教師、玉川大学出版部勤務のほか、文学、美術史、演劇などに携わる。28年、旧制成城高校の学友・大岡昇平の紹介で中原中也を知る。29年、中也、大岡らと同人誌「白痴群」を創刊。京大進学後は中也と頻りに文通。31年、中也から詩「羊の歌」を贈られる。32年、中也の故郷山口を訪れる。32~34年、詩集『山羊の歌』出版のため奔走。中也の死後、手元に遺った約100通の中也からの手紙をもとに『中原中也の手紙』を執筆する。



I N T E R V I E W

中原 豊

(中原中也記念館館長)

中原 豊 NAKAHARA Yutaka

中原中也とは血縁関係にはないが、中也の詩に魅了され、研究者となる。鹿児島女子短期大学専任講師、長崎大学助教授を経て、2003年に中原中也記念館の副館長に就任し、09年より館長。山口大学、山口県立大学、長崎純心大学非常勤講師。共著書に『中原中也を読む』(笠間書房)など。詩誌「あるかん」同人。

安原 喜秀

(東海大学大学院「居心地」評論家・研究者・文筆家)

安原喜秀 YASUHARA Yoshihide

安原喜弘の長男として東京に生まれる。東京大学工学系大学院博士課程修。日本で最初に居心地(いごち)学を提唱。居心地研究所代表であり、東海大学大学院人間環境学研究所客員教授。評論家・研究者・文筆家としても活躍する。著書に『大都会の小さな家一住の思想へ』(筑摩書房)など。



P4~7 photo: 渡辺慎一

中原中也記念館ではこの夏、特別企画展「中原中也の手紙―安原喜弘との交友―を開催します。そこで、企画担当者の中原豊氏(中原中也記念館館長)と、安原喜弘氏の息子であり、今回の展覧会の監修者でもある安原喜秀氏にお会いし、展示のこと、安原喜弘さんのこと、また2人がどんな関係性を築いていたのか、興味深いお話をお聞きしました。

手紙の受け手であった安原喜弘の目からも中也をみていく。

まず、今回の特別企画展はどのような内容の展示なのか教えてください。

中原 タイトルは「中原中也の手紙」となっています。中也はいろいろな人に手紙を送っていますが、今回は特に友人のひとりである安原喜弘に宛てて送った手紙を紹介しながら、そこに折々、中也と実際につきあう中で色々起こったエピソードなどを織り交ぜて書かれた本です。この本は、今までは「中也を知るための本」として読まれてきましたし、安原喜弘は中也の従順な友人としてだけみられていました。でも調査をしていくうちに、文学のほかにも演劇やデザインなど、安

原喜弘が様々な表現活動に関わっていたことが分かってきました。そういった安原喜弘に関する資料をご紹介しますが、中也その人だけではなく、手紙の受け手であった安原喜弘の目からも中也をみていく展示になります。

中原中也が安原喜弘に宛てた手紙で現存するのは、全部で102通。今回はそれらを会期を分けて全て展示します。また、なかなか存在を知られていなかった同人誌や安原喜弘が残した草稿なども、中也のものと一緒に紹介します。初公開の資料もたくさんあります。

安原喜弘はとてもストイックで控え目な人でした。中也に向き合っている時も多くを語らないし、この本の中でもあまり自分自身のことを語らない。だから謎の部分が多い。どうしてこの2人が親しくずっと付き合っていたのか。こんなにもたくさん手紙をなぜ中也は安原に送ったのか。また手紙とあわせて中也は安原にいくつかの詩も送っていますが、そこにどんなメッセージが込められているのか。様々な資料を使いながら、安原喜弘という人物を紹介する中で、そういった「沈黙の中

に沈んでいる部分」を浮かび上がらせていきたいと思っています。

安原喜弘にとって中也との出会いは事件だった。

息子さんからみてお父様・安原喜弘さんはどんな人物でしたか？

安原 僕は、実は父が亡くなるまで中原中也のことや手紙のことなどあまり興味がなかったんです。なぜなら、父が生きているときはこの問題には触れられなかった。うっかり言おうものならとても怖かった。家族の中でも父は(中也のことは)頑としてしゃべらないし、聞いてもほとんど語らず、断片をちよっと話すくらい。それくらい父にとっては中也との出会いは事件だったんです。

長男というのはそういうものなのか、私はいつも父に対して闘うというか、反発するような激しい感情を持っていました。なので、見えていなかった部分がずいぶんあった。ところが、父が亡くなってから遺

品を整理したり、周りの勧めもあって父のことを書くようになり、調べ始めて、改めて父のことを見直していくと、なかなか稀有な人だなと思いました。とても優しく、謙虚。そして家族・親戚・友達、年齢を問わずどんな人でも父に対しては親近感を覚えるようで、不思議なことにその優しさに包まれてみんないい気持ちになるんですね。

ただ、自分を語るということをあまりしない人でした。何かを言えばある人にあまりいい思いをさせない。何かを言うと今度はこちらの人にいい思いをさせない。そういうことがすごく気になっていたようで…。自己表現はあるけれども、ほとんどしなかった。自分が自分がというところをまず抑えてしまう人でした。

では中原中也と安原喜弘の関係はどうだったのでしょうか？

中原 中也は逆に自分を出さなければ済まなかった。自分自身であることに賭けていた人。

安原 安原喜弘とはまるっきり反対ですよ。ね。

安原喜弘は自分を語るというのをしない人。



観た！
みんなの！
の！

◎凜としたお母さんでうらやましく思えた。息子としてだけ愛したのだなど。(60代女性「中也の母・フク」より)
◎鈴木さんの音がすごく心地よかったです。音響にびっくりしました。(30代女性「sound tectonics #11」より)
◎フクさんの生涯を知ったうえで中也さんの詩をよむと、また違うように見えてくるかも。(30代女性「中也の母・フク」より)
◎アートに触れた。不思議な世界だった。(20代女性 三上晴子「Eye-Tracking Informatics」より)

わかる！
キーワード

【白痴群】 昭和4年、河上徹太郎、中原中也を中心に、阿部六郎、村井康男、内海誓一郎、大岡昇平、富永次郎、安原喜弘、古谷綱武が加わって創刊された同人雑誌。6号をもって昭和5年に廃刊となる。



中原中也は いつも誰かに何かを伝えたい という気持ちでいた人。 強くもっていた人。

中原 そうですね。中也はいつも誰かに何かを伝えたいという気持ちを非常に強くもっていた。だけど、ほとんどの人にはそのことは伝わらない。中也にとってはそれがもどかしくて、よく言われるようにお酒を飲んで暴れていたのはそういうところから発していた部分もあったと思います。常に詩人としては聞き手を、読み手を欲している。でもなかなか自分を理解してくれる人は得られない、中也はそういう人だった。安原喜弘はそれをよく理解し、お酒を飲んで暴れる中也をなんとかなだめたり、人と喧嘩しないように気を配ったり、喧嘩して殴られたら介抱してあげるとか、ほんとうに甲斐甲斐しくつくしていく。そこはやはり安原喜弘自身が表現者であったからこそ、中也と響きあうものがあつたのだという気がします。『中原中也の手紙』の中に、中也と安原喜弘が深く理解し合う仲になるきっかけとなったのは、2人が一緒に関わっていた「白痴群」という同人誌に安原喜弘が発表した詩がきっかけだったと書かれています。ただ、ここでもその詩がどんな詩だったのか安原の方は引用もしないし、その詩に対し

て中也が何と言っていたのかということにも一切触れていない…。
安原 普通だったら「これが私の詩です」とか、中也がどんなところに興味をもってくれたのか書くところを安原喜弘はまったく書かない。そこは徹底しているんだよね。
中原 中也の手紙の中でも、安原のことを「沈黙家」と言っているくらい、何も語らない人だった。だからこそ、よけいに安原喜弘がどういう人だったのか興味をそえられるところがありますね。

今回の展示では「手紙」がキーワードになっていますが、当時手紙はどのような役割を担っていたのでしょうか？

中原 中也からの手紙で「昨日は暴れてすみませんでした」という内容のものがあり、まさにこれなんかはいまの携帯電話、あるいはメールに近い感覚でしょうかね。

安原 当時は電話が思うように使えませんでしたしね。間に必ず交換手が入ったし、安原家にも電話はありましたが、家族が多く本人がすぐに出るとは限らなかつた。「昨日は暴れてすみません」というメッセージは何人かを通して伝えるようなものではなかつただろうからね。

中原 中也はつねに葉書や切手を持ち歩いていたようですよ。

安原 それは父も言っていました。(中は)鉛筆と消しゴムと葉書と切手はいつも持っていたと。

中原 出先で何かを思ったらすぐに書いて投函するというのが日常的だったようですね。常に誰かに何かを伝えようとしていた。たぶん伝えることで、考えていたんだと思います。それが中也にとっては非常に大切だった。そういう意味でやはりその相手が必要で、その相手になれる人が安原喜弘だった。

中也と安原喜弘がいかに真に通じ合っていたかが見えてきますね。

中原 そうではない面も…。出会ってから4年くらいたった頃、中也は安原喜弘を山口に呼び、ものすごく歓待しています。秋芳洞や長門峡など様々な場所に行

き、自分の故郷を熱心に紹介するんです。自分はここから生まれたんだ、という自分の魂の根っこにあるものを何とか中也は安原に伝えたかったんですね。でもその思いはなかなか伝わらない。安原が東京に戻るとき、中也は湯田温泉駅で見送るだけでは気が済まず、そのまま山口線に乗ってわざわざ小郡駅(現在の新山口駅)で乗り換えて、防府までついて行ってしまう。そのときの中也の態度というのが安原を帰したくない、安原に何か伝えたいことがある、でもなかなか伝わらない…。そこにひとつのクライマックスがあるんですね。

手紙の一字一文字に
込められた思い、
そこから浮かびあがる
中也と安原喜弘の
稀有な関係。



すごくもどかしく、切ないエピソードですね…。最後に今回はどんな方に展示をみていただきたいですか？

中原 特にいまの若い方に手紙を書くという行為はメールを打つ感覚とは違うところを感じ取っていただきたいなと思います。今回の展示ではサブテーマとして考えているのが、「書字」つまり字を書くということ。現代においては逆にその意味がより鮮明になると思っています。携帯電話とは違い、手紙は一字一文字ちゃんと最後まで書かないといけなし、その筆致に気持ちまで表れてくる。そのことを通じ、中也と安原喜弘の関係がとても稀有な関係であり、ある意味ではいま失われてしまっている深い人間関係を築いていたということ、またそのなかで生まれてきた中也の詩というものを受け止めてほしいですね。

後の人生にまで
ずっと引きずって
しまうほどの
壮絶なドラマがあったことを
知ってもらいたい。

安原 これを機会に今までの安原喜弘像から少し抜け出て、新しい時代に即した安原に対する見方が開かれていくような気がしています。安原喜弘も中原中也もともに20代で出会いますが、そのときに経験した非常に内面的な事件がその後の人生にまでずっと引きずってしまう、それほどまでに壮絶なドラマがこの2人の間にあったんだということを、いまの若い方にもっと知っていただきたいですね。それと同時にこの2人の稀有な関係はもっと探っていかないといけない。中也が安原喜弘に惹かれたのはなぜなのか？安原喜弘の周りの環境、彼の実家であった家、その家が建っていた場所、あるいは家族、特に当時9歳の安原の妹は中也の詩「羊の歌」にも登場しています…。非常に複雑で、様々な要素が影響しているのではないかと思います。



特別企画展 「中原中也の手紙 —安原喜弘との交友—」

2012年8月30日(木)～10月29日(月)

9:00～18:00(入館は17:30まで)

会場:中原中也記念館

【入館料】 ()内は20人以上の団体料金
一般 310円(262円) 大学生 210円(157円)
小中高校生 150円(105円) 70歳以上 無料

PRESENT

特別企画展「中原中也の手紙—安原喜弘との交友—」のパンフレットや関連書籍などをプレゼントします。

【申込方法】ご希望のプレゼント番号、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、10月31日(水)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

**A 特別企画展
「中原中也の手紙—安原喜弘との交友—」
パンフレット(3名)**

B 安原喜弘著『中原中也の手紙』(1名)

中原中也の友人・安原喜弘の手元に遺った約100通からなる中也の書簡を、安原自身の回想を織り交ぜながら紹介した1冊。2010年、講談社文芸文庫。



【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.81 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216 e-mail:any@yfcfp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

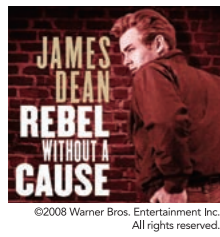


今夜はシネマ・ナイト☆

YCAMの夏の恒例イベント、星空上映会。涼しい夜空のもと、大きなスクリーンでみんなと一緒に観る映画は格別！空が薄暗くなったところ、YCAM前に徐々に集まり始める100人以上のお客さま。敷物を広げたり、食べ物や飲み物を準備しながら、家族や友達、恋人同士で映画の開始をいまかいまかと待つ、そんな光景にまた出会えることでしょう。8月の3夜連続上映。今年もたくさんの皆様のご来場をお待ちしています。

真夏の夜の星空上映会

2012年8月10日(金)～12日(日)
会場:中央公園(YCAM前) ※雨天の場合はYCAM内
[料金]無料(申込不要)



8月10日(金) 19:30～
「理由なき反抗」
(1955年/アメリカ/105分/デジタル上映)
[監督]ニコラス・レイ [出演]ジェームズ・ディーン、ナタリー・ウッド
若者たちが抱く大人や社会への奇立ちと不安を描いた傑作。24歳の若さで夭折したジェームズ・ディーン代表作の一つ。



8月11日(土) 19:30～
「真夏の夜の夢」
(2009年/日本/105分/デジタル上映)
[監督]中江裕司 [出演]柴本幸、蔵下穂波、平良とみ
沖縄の小さな島を舞台に、都会から帰ってきた女性と精霊との交流が巻き起こすダタバタ・ラブ・コメディ。



8月12日(日) 19:30～
「AKIRA」
(1988年/日本/124分/デジタル上映)
[監督]大友克洋 [声の出演]岩田光央、佐々木望、ほか
2019年、ネオ東京。不良少年、軍隊、宗教団体など様々な人たちが、謎の存在“アキラ”を巡り抗争を繰り広げていく。

ほかにも、この夏YCAMではこんな企画があります！



YCAM10周年記念祭イベント
コンサート
8月1日(水) 19:00開演
会場:スタジオA

前回のダイアログ&コンサートの様子(2011)

YCAM10周年の総合アーティスティック・ディレクターに就任した音楽家・坂本龍一を迎えてイベントを開催。坂本龍一×ゲストによるコンサートを行います。

[チケット情報]発売中
[料金]全席自由(整理番号付) ※未就学児入場不可
前売 一般 3,500円/any会員・特別割引 3,000円
25歳以下 2,500円
当日 4,000円



YCAM教育普及展覧会
「glitchGROUND」
開催中～8月12日(日)
10:00～19:00
会場:スタジオB ほか

YCAMでは子どもたちのための新しい学び場＝メディア環境を提案する展覧会を開催中。スタジオBの「コロガル公園」はいまや入場待ちの行列ができるくらいの盛況ぶり。リピーターも続出です。

[料金]無料

山口情報芸術センター(YCAM)

http://www.ycam.jp/

tecpot(テックポット) —学べて創れるメディア工房

2012年7～10月 各日13:00～19:00 ※詳しい日程はwebやチラシをご参照ください。
会場:2Fギャラリー

メディア表現に出会い、さらなる発見を生み出す場

さまざまなメディアテクノロジーを用いた制作を行うことができる特別スペース“tecpot”が昨年に引き続きYCAMに登場。このスペースでは、プログラミングや映像制作、デザイン、サウンド制作などの講習コースや機材が用意されていて、利用者は自身の興味や目的に応じて受講することができます。会場となるのは2Fギャラリー。外部からもよく見えるこの場所が、利用者にとっての「工房」となります。子どもからお年寄りまで、幅広い世代を対象としていますが、単に機材の使い方を学ぶだけでなく、メディアテクノロジーと日常生活との接点を考え、想像力を刺激するような5種類の講習を無料で実施。YCAMに訪れる方たちにとって、このスペースがメディア表現に出会い、新たな発見や創造の場となることを目指しています。創造することの喜びや発見が待っている、YCAMメディア工房“tecpot”へ一度お越しください。



参考写真:昨年の「tecpot」の様子

わたしはココに注目する!

昨年は、この企画にはまって、複数のコースを一度に受講する人も!まずは何か1つチャレンジしてみて、「楽しい!」「もっとやりたい!」と思った方は、ぜひいくつかのコースを受講してみてください。そうすればあなたの可能性もどんどん広がっていくはず!!

料金 | 無料(要申込) ※申込方法についてはお問い合わせください。
[対象]小学生～一般
[定員]各10名

scopic measure #14

Goh Uozumi 新作インスタレーション 「observer n(オブザーバー・エヌ)」

2012年8月25日(土)～10月28日(日) 10:00～19:00
会場:スタジオB

ネットワーク時代における新しい創造性とリアリティ



“scopic measure(スコピック・メジャー)”。シリーズ14作品目となる今回は、2009年の文化庁メディア芸術祭において、奨励賞を受賞するなど注目を集める

情報技術を柔軟に使いこなす、これから期待されるアーティストの作品やプロジェクトを、YCAMを舞台に順次紹介していく展示シリーズ。シリーズ14作品目となる今回は、2009年の文化庁メディア芸術祭において、奨励賞を受賞するなど注目を集める

気鋭のアーティスト魚住剛による新作を紹介します。会期中には魚住剛とゲストを迎えたトークイベントも開催。インスタレーションを観て、さらにトークを聴けば、より深い作品の魅力に迫ることができます。

わたしはココに注目する!

関連企画
アーティストトーク
2012年8月26日(日) 14:00～15:30
会場:ホワイト
[料金]無料(申込不要)
[出演]魚住剛

料金 | 無料

観る
聴く
楽しむ
の!

◎楽器経験ゼロですが、来て良かった!!若かったらな～、今すぐ吹奏楽部に入部するんだけど…。(50代女性「スーパー・プラス・ワールド」より)
◎音の素材を紹介する、芸術という点でおもしろみがある。(30代女性「sound tectonics #11」より)
◎はじめ会場に入った時は少し戸惑ったが、係員の方が丁寧に対応してくださったので、楽しむことができた。(40代男性 三上晴子「Eye-Tracking Informatics」より)
◎中ではフクさんの影響が強いというか、血でしょうか。そっくりだと思いました。(30代女性「中也の母・フク」より)

YCAM IneterLab+安藤洋子 「Reactor for Awareness in Motion」オープンスタジオ

2012年9月1日(土)、2日(日)
各日14:00～15:30
会場:山口情報芸術センター
スタジオA



参考写真:研究開発の様子(2011)

YCAM InterLabと国際的に活躍するダンサーの安藤洋子(ザ・フォーサイス・カンパニー)が、2011年から取り組んでいるダンスの創作と教育のためのツールを開発するプロジェクト「Reactor for Awareness in Motion」。その開発現場の様子を一般公開します。アーティストや研究者のナビゲートによって開発中のツールをいち早く体験することができます。

[料金]無料(要申込)
[対象]小学生以上(各回30名)
※小学1～3年生は保護者同伴

旅するYCAM

平川典俊 「木漏れ日の向こうに」



2011年に、YCAMで新作として発表されたアーティスト平川典俊による作品「木漏れ日の向こうに」が、この春、群馬県立近代美術館へも巡回(会期は6/10まで)。ダンサー安藤洋子、作曲家ミハエル・ローターとの共同作品であり、また山口大学教育学部の学生も制作に参加。4面のスクリーンに投影された一人の女性の映像が、観客の参加によって動き始め、会場内に設置された光と音楽とともにドラマティックに変化し、物語を展開していきます。群馬では、本作品に加え、初期代表作も含めた写真・映像作品など約190点を展示。平川典俊の芸術表現を紹介する大規模な回顧展が開催されました。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

中原中也を読む会

「第100回記念 映画『眠れ蜜』を観る」

2012年9月28日(金) 13:30~15:00

山口情報芸術センター スタジオC

中也、小林秀雄を翻弄した女性の貴重な映像



「中原中也を読む会」の様子

2004年に始まり、毎月1回、第4金曜に開催してきた「中原中也を読む会」。おかげさまで、このたび第100回を迎えることとなりました。そこで、100回目となる9月は、特別企画として、映画『眠れ蜜』(シネマ・ネサンス)を観る会を開きます。

「眠れ蜜」は、岩佐寿弥監督、佐々木幹郎脚本で、1976年に制作されました。作品は3部構成となってお

り、3人の女優がそれぞれ自身を語っているのですが、その自身とは、「女優」を演じている「自分」であり、「自分」を演じている「女優」でもあるという、現実とフィクションが巧妙に入り混じった作品です。今回はそのうち、中原中也の恋人であった長谷川泰子が登場する第3部(約25分)を上映し、その後、映画の感想について話し合う時間を設けます。

わたしはココに注目する!

「中原中也を読む会」という名ではありませんが、今回は、ただ単に映画を楽しみたいという方も大歓迎です。お気軽にご参加ください。

料金 ■ 無料 ※事前予約不要

【定員】100名

検定 中也



昭和7年のビール広告ホスター(アサヒグループホールディングス提供)

中也は詩人たちが集う雑誌の同人会や詩集の出版記念会にはあまり出たがりませんでした。しかし、身近な友人たちとお酒を飲むことに関しては積極的で、しばしば盛り場に出て行きました。友人とふたりきりで飲んでいる時、中也はとても静かなのですか、大勢で飲む時はうってかわって、ある行動に出してしまうことが多く、周りの人を度々困らせたといいます。その行動とはどのようなことでしょうか?

- 1 調子に乗って裸踊りを始める
- 2 相手を選ばず泣きつく
- 3 人の話から勝手にケンカをする

答えは14ページ

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

世界名作バレエ劇場 チャイコフスキー 3大バレエ・ハイライト

2012年7月29日(日) 15:00開演

会場:大ホール

ハイライトでお贈りする夢の名作バレエ劇場

世界でも数少ない青少年のために設立されたキエフ・クラシック・バレエ。「未来ある子どもたちに、本物の芸術にふれてほしい」という思いのもと、世界各地で上演し、これまでの来日公演でも大好評を博しました。そんなキエフ・クラシック・バレエが今夏、待望の再来日で山口にもやってきます。名門キエフ・バレエのプリンシパルをゲストに迎えた豪華なキャストが、チャイコフスキーの3大バレエの名シーンをハイライトでお届けします。今回のプログラムは、クラシック・バレエ史上に輝く傑作の中でも、子どもにも親しみやすい作品ばかり。名場面が凝縮された構成と高水準のバレエは、ファンのみならず、子どもも楽しめるステージとなること間違いなしです。ぜひ、ご家族で珠玉のバレエをご堪能ください。



わたしはココに注目する!

「くるみ割り人形」は第2幕おとぎの国のパーティーの場面、「眠りの森の美女」は名場面をストーリーにそって上演します。「白鳥の湖」は、王子がオデット姫に会おうシーンをはじめ、「四羽の白鳥」の息の合った踊りや叙情的な群舞なども必見です。

チケット情報 発売中

料金 全席指定 ※4歳未満の入場不可
前売 一般 5,500円 any会員 5,000円

美輪明宏 音楽会〈愛〉

2012年8月25日(土) 18:30開演 (17:45開場)

会場:大ホール

美輪明宏の唄には 溢れる愛のドラマがある

1957年「メケメケ」が大ヒット後、その個性的なファッションと美貌で世に衝撃を与えた美輪明宏。これまで日本におけるシンガーソングライターの元祖として「ヨイトマケの唄」など、多数の唄を作ってきました。その音楽活動の集大成として毎年開催されている「美輪明宏 音楽会〈愛〉」がいよいよ山口市民会館に初登場。クラシック、シャンソン、小学唱歌、歌謡曲、ジャズなどジャンルを越えた選曲で、様々な音楽の世界を一度に味わうことができます。



撮影:御堂義典

さらに自ら手掛けた演出や美術、衣裳など、趣向を凝らした舞台も圧巻。美輪明宏の手によって創出された魅惑的なステージとトーク、そして幅広い音楽の世界をお楽しみください。

わたしはココに注目する!

美輪明宏によってこだわり抜かれた舞台は豪華になること間違いなし! 煌びやかな舞台の中で歌われる感動の唄の数々を、ぜひ劇場でご堪能ください。

チケット情報 発売中

料金 全席指定
前売 一般 6,800円 any会員 6,300円
当日 7,300円

【構成・演出・美術・衣裳】美輪明宏

【演奏】セルジュ染井アンサンブル

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。

■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。

■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。



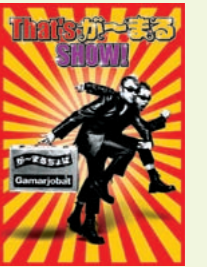
「解説コメント」
中原中也記念館の前庭で行っている屋外展示。今年度は「祈りの詩」をテーマに、前後期3篇ずつ、6篇の詩を展示しますが、ここでは前期の展示から1篇「妹よ」という詩を紹介いたします。本作は「白痴群」1930(昭和5)年第6号に発表され、のちに中也の第1詩集『山羊の歌』に収められました。(もう死んだついでいよう)と泣く

へうつくしい魂に対して、へうたくしはどうすることもできず、ただ祈ることしかできないという無力感が、風が吹きわたる夜の風景とあいまって切実に伝わってくる作品です。ちなみに、実際には中也に妹はいませんが、これはイメージなのでしょう。他の2篇の詩とあわせて9月まで展示しています。ぜひ足をお運びください。

妹よ
夜、うつくしい魂は泣いて、
——かの女こそ正當なるに——
夜、うつくしい魂は泣いて、
もう死んだついでいよう……といふのであった。
湿った野原の黒い土、短い草の上を
夜風は吹いて、
死んだついでいよう、死んだついでいよう、と、
うつくしい魂は泣くのであった。
夜、み空はたかく、吹く風はこまやかに
——祈るよりほか、わたくしに、すべはなかつた……

中
也
を
味
わ
う

●フォーサイズの天才性にも触れることができたと思います。(30代女性 シンポジウム「フォーサイズ・ダンス・スタディ・エクステンジ」より)
●関東大震災での地図に私の地元の名前があり、嬉しかった。しかし、被害にはあっていません。(60代男性 「高橋新吉—ダダイズムと関東大震災」より)
●未知なる世界を体感したようで何とも言えないほどの感動を憶えました。(50代女性 「sound tectonics #11」より)
●涙が出た。いろいろな思いがあったのではないのでしょうか。お母さんも賢人だったと知りました。(50代女性 「中也の母・フク」より)



“That's ga ~maru SHOW!”

2012年9月16日(日)

15:00開演

会場:山口市民会館 大ホール

赤いモヒカンのケッチ!と黄色いモヒカンのHIRO-PONによるサイレントコメディ・デュオ“が~まるちよば”。昨年秋にも山口に登場し、話題を集めた彼らが再び山口でパフォーマンスを披露します。今回はストリートでも、劇場でも話題沸騰!世界中を沸かすエンターテインメントショー!! が~まるSHOWだけをオナカいっぱいご覧いただくプログラム。みんなを幸せな笑顔で充たします。

【チケット情報】発売中

【料金】全席指定 ※4歳未満の入場不可

前売 一般 4,500円

any会員 4,300円



ワンダードラムパフォーマンス

2012年9月30日(日)

18:00開演

会場:山口市民会館 大ホール

大型のマリンバを叩く軽快なバチさばきや、6台の大小のスネアドラム(小太鼓)をアクロパティックに叩く魅惑のスネアドラム・パフォーマンスなど、身体全体を使って演奏する姿は迫力満点。斬新なアイデアに仰天テクニックの数々。楽器だけじゃなく、フライパン、クラッカー、風船にピコピコハンマーなど、音が出るモノなら何だって使っちゃう驚異のパフォーマンスをお楽しみください。

【チケット発売】

一般発売 7月29日(日)~

【料金】全席自由 ※4歳以上有料

前売 一般 3,000円

any会員 2,700円

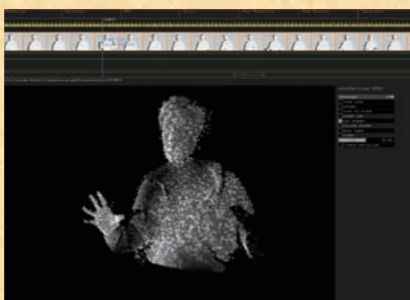
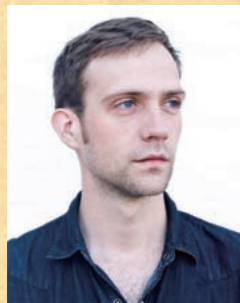
当日 3,500円

any通信

海や山で
自然を体験したあとは、
もっと夏を満喫だ!!



YCAM滞在中の
若手アーティストをご紹介します。
YCAMの研究開発チーム“YCAM InterLab”
では、昨年「ゲストリサーチプロジェクト」
として、外部の若手エンジニア/アーティスト
を1名招へいし、共同開発を行っています。
今年度はメディア・アーティストとして活躍する
ジェームズ・ジョージがアメリカからやって来ま
す。さて、いったいどんなアーティストなのか??
彼の過去の作品を館内に展示してご紹介し
ます。ぜひチェックしてみてくださいね。



**Guest Research Project vol.2
関連展示**
2012年8月18日(土)～11月25日(日)
10:00～19:00 入場無料

ワークショップの様子を展示中。
現在YCAMで開催中のYCAM教育普及
展覧会「glitchGROUND」の関連企画とし
て、このゴールデンウィークには、教育普及
のエッセンスが詰まった珠玉のワークショップ

8つを一挙開催。各10名ずつの定員がほぼ
満員、子どもから大人まで幅広い年齢層の
約80名の方が参加されました。ワークショッ
プを受ける方々の表情は楽しみながらもいつ
だって真剣。その様子を収めた映像や参加
者・YCAMスタッフへのインタビューを展覧会
開催中、ホワイエで観ることができます。会期
は8月12日まで。



「バスタ建築」ワークショップの様子 (2012)

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

高嶺 格 (美術家、演出家)

パフォーマンスや映像、インスタレーション、舞台美術など、さまざまな領域で活躍中の高嶺格さん。
YCAMでもこれまでに映像作品や大規模なインスタレーション作品を制作・発表。また今年も山口
市民が参加する2作品をYCAM前の特設テント内に披露しています。その度に訪れ、見てきた
YCAMについて、高嶺さんは質問があるのだとか…。

実はずっと聞いてみたいことがありました。



YCAMでのプロジェクトには、これまでいつ
か呼んでもらいました。いつも大変楽しい思
い出ばかりで、地の利(温泉地に隣接してい
る)も毎回満喫しているわけなのですが、実は
ずっと聞いてみたいことがありました。それは、
「YCAMのスタッフはどんな気持ちで毎日

仕事してるのか?」ということです。いうまでも
なくここは世界最先端の表現が生まれる場。
世界最高クラスの機材と技術力、しかもそれ
が最高の情熱とホスピタリティをもって新し
い表現をサポートするわけです。びっくりする
ような作品がどんどん生まれ、世界のメディア
アーティストにとっての聖地のような扱いを受
けているわけですが、それがあまり多くの人に
鑑賞されず、正当な評価を受けていないとい
うジレンマがあるのでは? 「世界」と「ココ」の
間で引き裂かれる思いがあったりするんじや
ないか? 個人的にはその「聖地感」のような
ものが、もっと全国の人や地元の人に伝わ
ってほしいと思っているのですが。

YCAM performance lounge #6
「いかに考えないか?」+
「ジャパン・シンドローム～山口編」
6月23日～7月1日
会場:中央公園特設テント



観客が出したお題に60歳以上のパフォーマーが即
興的に応えていくパフォーマンス作品と、福島原発
の事故以降の生活への不安や人々との間の分断を
会話の中からあぶりだす映像作品を発表。いずれも
山口在住のパフォーマーが出演する。

高嶺 格 TAKAMINE Tadasu
1968年鹿児島生まれ、滋賀県在住。美術家、演出家。90年
代初頭よりパフォーマンス活動を行い、ダムタイプの作品に
も参加。現在は、インスタレーションや映像、写真、パフォー
マンスやその演出など、多彩な手法で表現を展開する。

お先に
試写し
ました



©2011 Zentropa Entertainments ApS27

「メランコリア」

(2011年/デンマーク・スウェーデン・フランス・ドイツ / 135分 / カラー)
【監督】ラース・フォン・トリアー 【出演】キルスティン・ダンスト、シャルロット・ゲンズブール、キーファー・サザーランド ほか

観た人の多くが、いろんな意味でトラウマになっ
たと言う「ダンサー・イン・ザ・ダーク」(00)。カンヌ
国際映画祭パルムドール受賞作であることや、
ビョークとカトリーヌ・ドヌーヴの共演、トム・ヨーク
(レディオ・ヘッド)とビョークのデュエット曲であ
る主題歌「I've seen it all」がゴールデングロー
ブ賞を受賞するなど、多くの話題を集めた。それ
にも関わらず、その衝撃的なストーリーにトリアー
作品を避けたい人がいることはよく聞か話…。
だが、なぜか新作が出るたびに観ざるを得な
い、注目せざるを得ない、それが映画作家ラ
ース・フォン・トリアーなのだと思ふ。時に放つ過激
な発言は、波紋を呼び、作品によっては両端
な評価を受ける。しかし、常に実験的な彼の描
く世界は圧倒的な魅力と美しさに溢れている。
本作「メランコリア」も圧倒的な映像美や流
麗な音楽なくては語れない。作品全体を覆う

のは得体の知れない不穏感や閉塞感。であ
るにも関わらず、そこになぜか観客は魅せられ
てしまう…。それを象徴するのが、冒頭8分程
度の主人公ジャスティンと惑星メランコリアをイ
メージで綴った序章なのかもしれない。この冒
頭部分は映画史に遺るほどの美しさ。なので、
上映時間前に座席につかれることを強くお勧
めしたい。

松富淑香 (YCAM シネマ担当)

ラース・フォン・トリアー監督特集
2012年8月3日(金)～6日(月)
会場:山口情報芸術センター スタジオC
【料金】一般 1,300円
any会員・特別割引・25歳以下 800円

※本作「メランコリア」上映にあわせて、実験的な作品
「ドクヴィル」(03)「マンダレイ」(05)、過激な性描写で
賛否両論を呼んだ「アンチクライスト」(09)を上映します。
※各作品の上映開始時間はお問い合わせください。



©2011 Zentropa Entertainments ApS27

「メランコリア」作品紹介

ジャスティンは幸せの絶頂であるはずの結婚パーティで、なぜか虚し
さにとらわれ、感情をコントロールできないでいた。7週間後、姉クレ
アの家を訪れたジャスティン。惑星メランコリアの異常接近に脅える
クレアだったが、ジャスティンの心は逆に軽くなっていく…。「地球は
邪悪よ。消えても嘆く必要はないわ」と…。

My Favorite

朝一湯田の大通り(県道)のバス停近くから、藪が這う小径に入る。
夜一足元のライトを頼りに、隣接する飲食ビルから食欲をそそる匂
いが漂う小径を抜け、湯田の大通りに出る。
職員限定の空間ですが、通用門内側のしっとりとした小径、外側の
通りとのギャップが、何故だかたまらない。

佐内泰之 (中原中也記念館 副館長)



いらっしゃいませ



キーマ・ベガン・カレー
900円
※チーズナン450円、ラッシー400円

シバのカレーで暑い夏も吹き飛ばそう

ふう〜、暑い。こんな日はカレーを食べたい!! とやって
来たシバ。夏限定のキーマ・ベガン・カレーが定番
メニューになったと聞き、さっそく注文。おや、何ともき
れいな色のカレーが出てきたぞ。中に浮かぶのは目
にも鮮やかな揚げナス。見ただけで食欲そそられる。
鳥のひき肉にトマト・玉ねぎなどの野菜と甘味が溶け
込んで、トロっとしたナスの触感も絶妙!! 汗をかきな
がらもさらに進む食欲、もう止まらない。そして、初挑
戦のチーズナン。熱々のうちに手でちぎりながら食べ
ると、うわ、チーズの香ばしさとカリカリの食感がたま
らん! お店の方が「このナンは本当によくできんです
よ」と言うのも納得。夏の食欲不振を忘れさせてく
れるシバのカレーとナン、いいですね!

インド料理専門店「Shiba」
山口市糸米2-7-45 TEL.083-932-4800
営業時間:11:00～23:00 年中無休
※any会員はスタンプを2倍に(他サービスとの併用不可)

GOOD GOODS



記録集

『Creativity Seen/
Unseen in Art and Technology』

YCAMの活動の全貌がここに!

2003年11月の開館から5年間の山口情報芸術
センター [YCAM]の活動をまとめた記録集を
現在販売中。開館以来、メディアテクノロジー
と身体をめぐる新しい芸術表現を追求してきた
YCAM。これまでに同館が創造・発信してきたオ
リジナル作品の紹介とあわせて、坂本龍一、藤本
隆行(ダムタイプ)、岡田利規、大友良英、佐々木
敦など、YCAMにゆかりのあるアーティスト・批
評家たちによるインタビューやエッセイが収録
され、読み応えたっぷりの内容です。

価格:3,675円(税込)
サイズ:18×23.5×2.5cm
240ページ(日本語・英語)

「の!」

- ◎指揮者のお話がとても楽しかったです。また何か楽器を始めたくまりました。(40代女性 「スーパー・プラス・ワールド」より)
- ◎現在はアートが、まだまだテクノロジーより上位にあるらしいと知って、うれしかったです。(60代女性 シンボジウム「フォー・サイズ・ダンス・スタジオ・エクスチェンジ」より)
- ◎通常の楽器と違って、一つの音を出す時、もう一つの音が重なるところにとても魅せられました! (30代男性 「sound tectonics #11」より)
- ◎音も振動も映像も全て、カッコよかったです。(20代男性 三上晴子「Eye-Tracking Informatics」より)

「の!」

- ◎今後の展開が楽しみです。(30代女性 シンボジウム「フォー・サイズ・ダンス・スタジオ・エクスチェンジ」より)
- ◎インタビューや主旨を「ほんの少しだけ」加えると、作品を楽しみ、かつ味わうことができるのかなと思いました。(30代女性 「sound tectonics #11」より)
- ◎メディアアートのジャンルにはあまり興味はなかったけど、おもしろかった。目というツールが新鮮。(10代女性 三上晴子「Eye-Tracking Informatics」より)
- ◎本当に楽しい時間でした! クラリネットのお兄さんとてかっこよかったです。(10代女性 「スーパー・プラス・ワールド」より)

7 July

8 August

9 September

掲載内容は2012年6月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター
(YCAM)
http://www.ycam.jp/

アート

開催中	12	25	~10/28
📖 YCAM教育普及展覧会「glitchGROUND」(本誌P8参照) ※7/8、22 関連企画「子どもあそびばミーティング」あり		📖 scopic measure #14 Goh Uozumi 新作インスタレーション展「observer n」(本誌P9参照) ※8/26 アーティストトークあり	
		18	~11/25
		📖 Guest Research Project vol.2 関連展示	

ライブ

	1		
	🎵 YCAM10周年記念祭イベント 坂本龍一コンサート(本誌P8参照)		

シネマ

6 8	13 16	20 22	27 29	3 6	10 12	17 19	24 26	31 2	14 17	21 23	28 30
👁️ 「ポエトリー」	👁️ ヴェルナー・ヘルツォーク監督特集		👁️ 「明りを灯す人」	👁️ ラース・フォン・トリアー監督特集	👁️ 真夏の夜の 星空上映会 (本誌P8参照)	👁️ 「NINIFUNI」 「イエロー・キッド」	👁️ 「預言者」	👁️ 「断絶」 「果てなき路」	👁️ 文化庁優秀映画 推進事業	👁️ 「生きてるものは いないのか」	👁️ 「テザ」

その他

	14 16		28 29	11 12	25 26	1 2	8 9	22 23
	👤 tecpot 一学べて創れるメディア工房(本誌P9参照)		👤 tecpot 一学べて創れるメディア工房(本誌P9参照)	👤 tecpot一学べて創れるメディア工房(本誌P9参照)		👤 YCAM InterLab+安藤洋子 「Reactor for Awareness in Motion」オープンスタジオ(本誌P9参照)	👤 tecpot 一学べて創れるメディア工房(本誌P9参照)	👤 tecpot 一学べて創れるメディア工房(本誌P9参照)

山口市市民会館
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

13	29	25	16	30
🎵 AYAKA HIRAHARA Concert Tour 2012 〜ドキッ!〜	👁️ 世界名作バレエ劇場 チャイコフスキー 3大バレエ・ハイライト(本誌P11参照)	🎵 美輪明宏 音楽会(愛) (本誌P11参照)	👁️ "That'sが〜まるSHOW!" (本誌P11参照)	🎵 ワンダードラム パフォーマンス (本誌P11参照)

中原中也記念館
http://www.chuyakan.jp/

開催中	26	30	~10/29
👁️ 企画展I「高橋新吉 ―ダダイズムと関東大震災」		👁️ 特別企画展「中原中也の手紙―安原喜弘との交友」(本誌P3~7参照)	
開催中	26	24	~2013/2/18
👁️ 第9回常設テーマ展示「[在りし日の歌]まで」	27	👤 中原中也を読む会 会場:山口情報芸術センター	👁️ 中原中也を読む会「第100回記念 映画『眠れ蜜』を観る」 (本誌P10参照) 会場:山口情報芸術センター

[マーク説明] 📖 体験する 👤 参加する 🎵 聴く 👁️ 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

<http://www.ycfcp.or.jp/>

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話 チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

TEL. 083-920-6111

窓口 チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口 ※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上

[料金] 1人につき500円、

2人目以降は1人につき300円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケット

インフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。

事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分150円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで

(山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

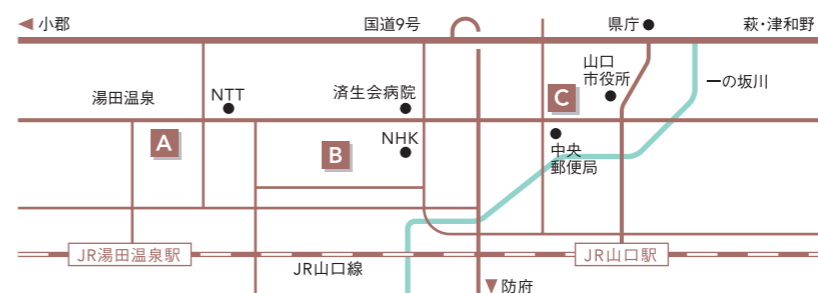
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075 山口市中央2-5-1 (山口情報芸術センター内)
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

今回の特集ページのインタビューを行って。言葉にならない思いを伝えようとした中原中也、その思いを必死に受け止めようとした安原喜弘。自分にもそんな友がいるだろうか、ふと思ふ…。[M.D]事務室の席替えがありました。自分の乱雑な机をそのまま移動して、引っ越した。整頓すればするほど、必要な時に限って資料が見つからない性分なので、これくらいが仕事はかどります! 言い訳では無いですよ。[T.U]

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター(YCAM)

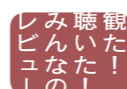
〒753-0075 山口市中央2-5-1
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝祭日の場合は翌日)、年末年始
http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

C 山口市市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp



検定 中 也
A. 3 人の話からんでケンカをする
(自分からふっかける割に中ではケンカに弱く、残念ながら負けてばかりいたようです。)



観 覧 聴 取
②、3回体験してみると、もっと遊び方が分かってくるのだらうなと思いました。(20代女性 三上晴子「Eye-Tracking Informatics」より)
③筋肉痛が心配なくらい拍手していました。もっと聴いていたかったなあ。(40代女性 「スーパー・プラス・ワールド」より)
④四方に音を出す仕組みがとてもおもしろく、楽しめました。(20代男性 「sound tectonics #11」より)
⑤最後フラフラしたけど、目で絵が書けてとて楽しかった。(10代女性 三上晴子「Eye-Tracking Informatics」より)

安
尔



吉
原
弘

郵便はかき



中
原
中
也

公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion



本
原

安
原
吉
弘
永



中
原